

グレビーシマウマのメスの“キララ”的死因について

当園で飼育していましたグレビーシマウマのメスの“キララ”(11歳)が8月25日に亡くなりました。“キララ”は2012年より飼育しているオスの“ラガー”との繁殖を目的として、2014年10月に京都市動物園より来園しました。大人しく穏やかな性格で、運動場ではダチヨウやシタツンガとも仲良く過ごしていました。2018年にはオスの“ラッキー”が生まれ、母親となりました。(“ラッキー”は2020年に横浜市野毛山動物園に移動)

“キララ”は昨年の5月に疝痛(腹痛)症状が見られ、今年に入ってからは発症を繰り返すようになりました。治療のご報告などに対し、皆様からたくさんのお応援をいただき、また今回もたくさんのお悔やみのお言葉を頂戴しました。以下に“キララ”的これまでの飼育状況と死亡原因についてご報告させていただくと共に、“キララ”を応援し、大切に想ってくださった皆様に心から感謝申し上げます。

1. 飼育状況

2014年10月より飼育を開始し、しばらくは大きな病気やケガはなく健康に過ごしてきました。しかし2020年5月に疝痛(腹痛)が見られ、投薬による治療を行いました。2021年1月末には再び疝痛を伴う採餌不良がみられたため、麻酔下で原因精査を行いましたが、原因は特定できませんでした。その後も食欲不振や便秘などを繰り返したため、4月には岩手大学に検査を依頼し、内視鏡検査(胃カメラ)と点滴治療を行いました。検査の結果、胃粘膜の腫れや胃液の異常などが見られ、病状の再発を防ぐための投薬治療を継続してきました。

その後しばらく調子は安定していましたが、8月になり再び疝痛の兆候が見されました。8月12日に再度麻酔下で原因精査を行ったところ、胃潰瘍や胃粘膜出血が見られたほか、血液検査の結果からは腎臓の悪化も懸念されました。8月16日に“キララ”的現状と、飼育状況や今後の治療方針をチーム内で協議共有し、点滴治療を最優先すべきとの判断から8月21日と8月24日に麻酔下での点滴治療を行いました。その際にも原因精査のための検査を行いましたが、原因の特定には至らず、また、肝臓の状態が悪化していることが分かりました。

麻酔下での治療後も状態が回復しないため、麻酔をかけずに点滴ができるように留置針を設置して点滴治療を続ける予定でしたが、翌25日朝5時半ごろに突然横臥状態となり、その後死亡を確認しました。

2. 死因の推測

解剖を行った結果、結腸破裂を起こしていたことが分かりました。破裂を起こした付近の腸の内容物は固く乾燥し、結腸粘膜には潰瘍がみられました。腸結石や異物などによる腸閉塞はなかったことから、何かしらの原因で腸の動きが低下したことや脱水などが引き金となり、食渣が結腸内に滞留し、その後硬くなった食渣により腸閉塞・破裂に至ったと考えています。

また、肺のうつ血や膿の貯留、肝臓の変色がみられたことから、肺炎や肝障害も併発している可能性もあります。現在詳しい病理組織検査を外部機関に依頼し、死因の原因精査を進めていることです。今後は得られたデータから飼育方法を見直し、病気予防と治療に努めて参ります。

3. 経過詳細

2021年

- 1月31日:採餌量減少、排便量少ない。注射治療
- 2月 1日:採餌やや回復、排便変わらず少ない。投薬
- 2月 3日:朝、疝痛症状あり、採餌少量、注射治療 疝痛症状おさまる
- 2月 5日:採餌あり、排便見られるが便小さい。投薬
- 2月 6日:採餌不良、排便少なく、腹部にやや張り見られる。投薬
- 2月 8日:麻酔下にて点滴、胃ガス・胃液排出のためカテーテル等挿入、注射治療
- 2月 9日:採餌やや増えるも少量、座っていることが多い、注射治療
- 2月10日:採餌量増える、排便あり、動作良好、投薬
- 2月15日:採餌・排便回復。投薬継続
- 4月 4日:軟便あり、尿・便検査、採餌量低下、注射・内服薬投薬による治療
- 4月 6日:採餌量少ない、注射治療・投薬
- 4月 9日:麻酔下にて検査治療、胃粘膜浮腫、胃液貯留あり
- 4月10日:採餌量が通常の半分以下、投薬
- 4月11日:採餌量・排便やや回復、投薬
- 4月19日:採餌・排便が通常に戻る、投薬
- 8月 1日:排便量が少ない、採餌量減少、常同行動あり、尿検査、注射・内服薬投与
- 8月 6日:採餌ごく少量、注射治療
- 8月 8日:状態変わらず、注射治療・投薬
- 8月 9日:ペレット・乾草を程度しか食べず。注射治療、“キララ”的現状と、飼育状況、今後の治療方針等をチーム内で共有
- 8月12日:麻酔下にて精密検査及び治療→胃潰瘍・胃粘膜出血あり、胃液貯留なし。血液検査により腎機能低下を疑う
- 8月13日:採餌・排便なし、胃潰瘍の治療開始、鼻汁が出るようになる
- 8月16日:採餌量が通常の1割以下、排便なし、排尿あり、鼻汁あり、飲水量減少 皮膚の傷の治りが悪い。投薬 “キララ”的現状と、治療内容方針等をチーム内で共有話し合い
- 8月17日:採餌量が通常の3割程度に回復、皮膚より排膿あり、鼻汁多い、投薬
- 8月19日:鎮静をかけ点滴予定量だったが麻酔が効かず中断
- 8月21日:麻酔下にて点滴、血液検査実施、点滴が継続できるよう留置針をつける

8月22日:留置針より点滴を試みるが、不通のため留置針除去する。下痢、投薬
8月23日:採餌・排便なし
8月24日:麻醉下にて点滴、血液検査実施、点滴が継続できるよう留置針をつける
8月25日:朝死亡を確認

4. 個体情報

動物種:グレビーシマウマ(愛称 キララ)

性別:雌

年齢:11歳(生年月日:2010年7月17日)

体重:352 kg

頭胴長:241 cm(尾長 47 cm)

肩高:141 cm